

平成 25 年度 学術振興基金助成による成果報告書

平成 25 年 11 月 13 日

学 長 殿

所属部局・職名 経済経営学類 准教授

申 請 者 名 荒 知 宏

助成事業の区分 (該当するものに○印)	研究協力に関する事業 (学術出版・叢書・ 学会等) 学術振興に関する事業 (学生・事務職員・その他の特別事業)
事業名	第 3 回 国際経済・産業ゼミナール
事業実施期間	平成 25 年 10 月 26 日 ～ 平成 25 年 10 月 27 日
成果の概要	<p>学術振興基金の助成を受け、学外から 6 名の研究者を招き、福島大学・行政政策学類棟において「第 3 回国際経済・産業ゼミナール」を開催した。2 日間に渡る研究会では、(助成申請者である私自身を含めた)7 名の研究者が 1 時間半ずつ各々の研究について報告した。今回開催された研究会での成果は、大きく分けて以下の 2 つである。</p> <p><u>1. 報告論文の改善</u></p> <p>研究会では各自の研究を早い段階で発表し、参加者のコメントを受けて論文の質を高めることができた。本研究会では、報告論文の改善という主要目的を効果的に達成するために、どの発表者の研究報告でも、質疑応答の時間を普段よりも長めに設けて、どの観点を更に発展させることができるかについて積極的に議論を行った。また、7 名の報告者以外にも 3 名の研究者に(自費で)お越しいただき、各セッションの議論の質を高めるように努めた。その結果、普段の研究会に比べて、報告論文の改善を行うのに今後役立つであろう有益なコメントをたくさん頂くことができた。</p> <p><u>2. 新しい研究の着想</u></p> <p>各発表者の研究報告を通じて、新しい研究の着想を得る貴重な機会を提供することができた。本研究では、様々な分野の研究者が単発的・短時間に集まる普段の研究会とは異なり、近隣分野の研究者が 2 日間に渡って集中的に議論を行ったが、参加者の中には報告された論文を聞いて、新しいアイデアを思いつき、発表者との共同研究を始めることを計画している人もいたようだった。また、研究会を通じて初めて知り合った研究者も少なくなく、各々の研究分野について意見交換をする場にもなった。このように、(直接的・間接的に)将来の共同研究の可能性を作ることができたのも本研究会の成果の 1 つと言える。</p>